



# 辻よし子と歩む会

「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

HP「辻よし子と歩む会」で検索



## 初めての「委員会」傍聴

2024年2月28日に私は市議会の「委員会（環境建設委員会）」を傍聴しました。聴いたのは、五日市駅前開発計画の見直しを求める陳情の審査です。陳情は2023年11月に結成された市民グループ「あきる野のいまを知る会」によるもので、現在の計画の性急かつずさんな進め方を問題視し、市民に開かれた公平な計画の再検討を求めるものでした。

結果は陳情に賛成が2名、反対が4名で不採択。最終日の本会議で正式に不採択になりました。

辻さんは陳情に賛成の立場で市の総合計画や議会基本条例、法令などを丹念に調べて比較し、現行の計画の問題点を鋭く追及していましたが、市長や一部の議員は恫喝のようなヤジを飛ばし、市職員は支離滅裂な答弁を読む…というものでした。進めるための理論が破綻していても計画を進める、ということのようです。今までは仲間うちでクローズドに進めることができた計画に、うるさい奴ら（計画に疑義を示す議員や市民）が横やりを入れてきた、仕方がないから話を聞いてやるか、という本音が透けて見えるようでした。

ただ、私は「瀬音の湯」や「あきる野ルピア」「キララホール」といった施設が建てられる時に今回ほど注目して声をあげたりはしませんでした。

「民主主義国家においては、国民はみずからの程度に応じた政治しか持ち得ない」ということばが示すように、このようなひどい議会を放置するのか、改めるべきとするのかは有権者である私たちにかかっています。やはり市民一人ひとりが市政に関心を寄せることが大切です。

五日市駅前開発計画は3月議会で本予算が通ってしまいましたが、今後も経過をウォッチし、機会があれば声をあげることが私たちにできる「不断の努力」なのかなと思います。

(I・A 瀬戸岡在住)



## 求められる「市民参加のまちづくり」

辻よし子議員の一般質問を傍聴して、あきる野市の「市民参加のまちづくり」がいかに後れているかを知って愕然とした。

まず、辻議員が指摘したのは、五日市駅前開発に関して庁内で議論された経緯が議事録として残されていないこと。あきる野市には文書作成義務を定めた「公文書管理条例」がないそうだ。それと共に、市長が駅前開発を急いでやらせようとしたために、本来あるべき会議が開かれなかったことも明らかにされた。

また、パブリックコメントについてのあきる野市の姿勢もひどい。単なる「ガス抜き」「アリバイづくり」でしかない。驚いたのは、パブリックコメントの中の「説明会をして欲しい」という要望への答えとして、パブリックコメントの意義を書いた後に「なお、説明会は行いません」と付け足すだけで、やらない理由を何一つ答えなかったことだ。

そして、副市長の答弁にも呆れた。辻議員は五日市駅前開発に関連して、市長の面会記録の情報公開を請求したところ、多くが「黒塗り」になって返ってきた。市政に関する情報については「市民の間に不当に混乱をまねく恐れがある」場合は公開しないでよいことになっているそうだが、辻議員はそれ程のことなのかと問い質したのだ。しかし、返って来たのは「職員は手引きにのっとってやっている」という、答えにならない「答え」のみ。

最後に、辻議員は他市の「市民参加」の手法を紹介した。それは「目から鱗」だった。五日市駅前開発は4億円近くもかけた事業なのだから、他市の手法も参考にしながら、できるだけ多くの市民に参加してもらい、ていねいな手順を踏んでいった方が盛り上がると思う。

なぜ、そんなに急ぐのか。早くやろうとするからいろいろなことに無理が生じる。このままでは「市民参加のまちづくり」からはほど遠いことを実感した。

(T・K 草花在住)



## 数の論理で押し切る国会に 市議会が重なって見えた

五日市駅前開発事業への陳情は、市民との合意形成に向けて丁寧な話し合いをしてほしいという筋の通ったものだった。その陳情に対して自民党議員は、この事業は市長が議員時代からずっと考えてきたこと、反対の人の意見をいちいち聞いていても進まないと言われ、自分たちが決めたことに新住民は口を出すなと言わんばかり、全く議論にならなかった。

議員が市政について議論することは市民のためにより良い結論を導き出すためであり、議員である限り必要不可欠な仕事といえる。しかし傍聴していて、自民党議員が議論せずに数の論理で押し切る場面を度々目にしてきた。中には「認識の違い」を理由に議論しない自民党議員まで現れたが、その「認識」をオープンにして議論することこそ議員としての仕事のはずだ。

また今回、辻議員が情報公開で明らかにした市長の面会記録のかなりの部分の黒塗りにも驚いた。2020年改正のあきる野市情報公開条例は行政には公開の義務があり、非公開は特別な場合だけとしている。公務中の市長の面会記録に黒塗りがあるのはおかしいと思うのは当然の市民感覚だ。オープンにしたらなにかまずいことでもあるのだろうか？

この黒塗りに対しては辻議員が行政不服審査請求を出している。審査結果に注目したい。

情報公開されなければ議論ができないのは裏金疑惑に関する国会中継を見ても明らかだ。国会では自分たちだけにしか通じない理屈と数の論理でずっと押し切ってきた自民党が支持率最低を更新しようとしている。現状はあきる野市議会も同じと思うのは私だけ？

(A・M 小川東在住)

無党派  
一人会派

### 辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で初当選。現在9年目。常任委員会は環境建設委員会。広報広聴委員会委員長。夫、次男、ネコ1匹と草花に暮らす。

## 武力で平和はつukれない ～私たちの決意・行動が大事です～

自民・公明政権は、戦闘機輸出を解禁する閣議決定をした。維新、国民民主も、当然のことだと言った。彼らは、それが人殺しの道具だと知っているはずだ。既に「防衛装備品」などと言い換えて武器輸出に道を開いてきた彼らは、平然と軍需産業支援も口にしてしている。

一方で、アメリカから高額な兵器を爆買いして「防衛費」を膨張させ、そのしわ寄せを弱い立場の人たちに押しつけている。彼らは、自分たちさえ良い生活ができれば、他国の人間が死のうと国民が苦しもうと構わない、と思っているのではないか。

彼らは、憲法「改正」を主張し続けている。「閣議決定」を乱発して、憲法を骨抜きにしておきながら。

今の憲法は、先の大戦で内外の多くの人々を殺傷し、国土を荒廃させた反省の上に定められたはず。だから、前文には「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうに」、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」と書かれているのだ。

今、ガザではたくさんの方が殺されている。爆殺、射殺ばかりでなく、多くの人々が飢え、体力のない子どもたちが次々に死んでいる。そういう現実を目を向けず、想像力を働かせない政治家たちが、軍備増強や憲法「改正」を声高に主張しているのだ。

虐殺を続けるイスラエルの現政権を選んだのはイスラエル国民。私たちがしっかり考え、行動しないと、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ること」になってしまうのではないだろうか。(S・K 高尾在住)



「辻よし子と歩む会」

会員募集中！

年会費：1,000円（カンパ歓迎！）

郵便振替

加入者名 辻よし子と歩む会

口座番号 00140-9-430053

ゆうちょ銀行(店番)〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)

当座 0430053

